

## 大雪山グレードについて

- 「大雪山グレード」は、登山者が自己責任で行動判断を行う時の目安(区間における行動判断の要求度や難易度)を示し、力量に応じた登山を推奨するもの。
- また、管理者に対して、大雪山グレードに応じた登山道の保全修復や維持管理を行い、登山道周辺の自然環境等の持続的な保全を図るよう促すもの。
- 平成27年6月に環境省北海道地方環境事務所が策定した「大雪山国立公園登山道管理水準 2015年改定版」に示されている。

### 大雪山グレード

	<p>グレード 5</p>	<p>大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地形的条件等から天候判断がより難しく、且つ登山口からの距離や避難小屋の間隔が長くエスケープ*を取りづらい登山ルートや徒渉*や岩場通過等高度な技術を要する登山ルート</li> <li>・自然の雰囲気保持を最優先とした登山ルート</li> <li>・登山者自らのリスク管理が必須とされ、極めて高度な行動判断を要求される登山ルート</li> </ul>
	<p>グレード 4</p>	<p>大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地形的条件等から天候判断がより難しい登山ルートや登山口、ロープウェイ駅からの距離が長く日帰りに適さない登山ルート</li> <li>・自然の雰囲気保持を最優先とした登山ルート</li> <li>・登山者自らのリスク管理が必要とされ、高度な行動判断を要求される登山ルート</li> </ul>
	<p>グレード 3</p>	<p>大雪山の自然を体感する登山ルート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山口、ロープウェイ駅からのアクセスが比較的良く、日帰り程度の距離で設定された登山ルート</li> <li>・歩行の快適性よりも自然の雰囲気保持を優先した登山ルート</li> <li>・登山者自らの一定のリスク管理が必要とされ、一定の行動判断を要求される登山ルート</li> </ul>
	<p>グレード 2</p>	<p>大雪山の自然とふれあう軽登山ルート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山口、ロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的短距離で設定された登山ルート</li> <li>・段差処理*、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配慮されている登山ルート</li> </ul>
	<p>グレード 1</p>	<p>大雪山の自然とふれあう探勝ルート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉施設やロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的高低差が少なく設定された一般観光利用者向けルート</li> <li>・段差処理、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配慮されている探勝ルート</li> </ul>